



## 喪失の時

### 暗唱 聖句

「そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみえています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。キリストを得（るためです）」  
(フィリピ3：8、新共同訳)

「わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであ（る）」  
(ピリピ3：8、口語訳)

### 今週の 聖句

マルコ5：22～24、35～43、Iペトロ5：6、7、創世記37：17～28、ルカ16：13、ローマ6：16、Iコリント15：26

### 安息日 午後 5/25

### 今週のテーマ

アダムとエバは、善悪の知識の木の実を食べた瞬間に初めての喪失、罪なき状態の喪失を経験しました。そしてこの喪失は、利己心、対立、非難、相手を支配し、相手より優位に立ちたいという欲求に置き換わったのです。

罪に墮ちた直後、彼らは、命が失われるのを初めて目撃しました。それは、彼らの裸を覆うために動物の毛皮が与えられたときです。彼らは、命の木の実を食べて永遠に生きることがないよう、その木に近づくことを禁じられたために完璧な園の家をも失い、さらに何年も経ってから、息子のアベルを、兄であるカインの手によって失いました。最後には、伴侶の片方を失い、生き残った伴侶も自分の命を失ったのです。一つの決断の結果として、多くのものが失われました。

確かに、私たちはみな、喪失の現実とその痛みを知っていますし、ほとんどの人は、喪失が自分の家族を襲うときに最も強くそれを感じます。それもそのはずで、私たちは家族の中に最も親密な絆を持っているからです。従って、家庭における喪失は、さまざまな形において私たちに最も強い衝撃を与えます。

私たちは今週、さまざまな喪失の時との関連で家庭生活について考え続けます。

私たちは命の木から何千年も経っていますが、とりわけ肉体的健康に関して、だれもがそのことを感じます。若くして外傷によって死なない限り、遅かれ早かれ、私たちはみな、健康の喪失という厳しい現実と直面します。

健康の喪失は困難なことですが、それが私たちに襲うだけでなく、家族を襲うとき、どれほどつらいことでしょうか。病気の子どもの世話をしてきたどれほど多くの親たちが、わが子の代わりに自分が病気であればよいのにと願ってきたことでしょうか。あいにく、私たちにはそのような選択肢が与えられません。

**問1** これらすべての話に共通していることは何ですか。マコ5：22～24、35～43、マタ15：22～28、ルカ4：38、39、ヨハ4：46～54

これらのいずれの場合にも（そして間違いなく、もっと多くの場合にも）、家族のためにイエスの助けを懇願しているのは、家族のほかの一員です。

疑いもなく、私たちは、人間が苦しむのは墮落した世界に生きているからだと思っています。罪がこの世に侵入したとき、死だけでなく、慢性的な苦しみ、病気、疾患なども一緒に侵入しました。慢性的、または末期の病に直面したとき、私たちは衝撃、怒り、絶望を味わい、「わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず／呻きも言葉も聞いてくださらないのか」（詩編22：2〔口語訳22：1〕）と叫びたくなるかもしれません。ダビデがそうしたように、私たちが疑問、怒り、痛みを神にぶつけばよいのです。

いろいろな意味で、病気や苦しみは、イエスの再臨の際に死が最終的に敗北するまで謎のままです。一方で、私たちは神の言葉の中から重要な真理を集めることができます。ヨブは言いあらわしようのない苦痛に耐えながらも、神との親密さを深める体験をしました。「あなたのことを、耳にはおりました。しかし今、この目であなたを仰ぎ見ます」（ヨブ42：5）と、説明しています。パウロは何らかの慢性疾患を持っていましたが、その病に対する対処の仕方は、（もし私たちが苦しみによって打ち負かされなければ、）苦しみによって私たちが他者を慰められるようになること、苦しんでいる者への思いやりを私たちが持てるようになること、私たちが一層効果的に仕えることができるようになることを教えています（Ⅱコリ1：3～5）。

◆ 私たちや家族が病気で苦しむとき、どの約束を自分たちのものとして主張できますか。このようなとき、私たちの主イエスが十字架で苦しまれた事実は、なぜ私たちにとって重要ですか。十字架上のイエスは、私たちの家族が病気の中にあっても変わることはない神の愛について、何と教えておられますか。

私たちはみな、罪深い、機能不全の人間であり、時として、私たちが信頼してくれた人に、自分が信頼できない人間であることを証明します。また、だれかに私たちの信頼を裏切られたことのない人がいるのでしょうか。そのような信頼の喪失はつらいものになりえますが、私たちが家族を裏切ったり、家族から裏切られたりするときほどつらいものは常にありません。

その関係が再構築するだけの価値がないと判断したときには、時として、失ったものを切り捨て、逃げたほうが簡単だと思えるかもしれません。しかし言うまでもなく、それが家族、例えば伴侶である場合には、それほど簡単ではありません。結婚の目的の一つは、信頼が壊れたときにそれをいかに再構築するかという教訓を学ぶことだ、と言えなくもないのです。

**問2** 人間関係の信頼が傷つけられたとき、いかに両者は信頼し、その関係を修復し、保つことができますか。Iペト5:6、7、Iヨハ4:18、ヤコ5:16、マタ6:14、15

壊れた信頼を修復することは、旅に似ています。あなたは着実に一歩ずつ進んで行かねばなりません。その旅は、信頼を壊した行為が何であれ、壊した人がだれであれ、傷つけたことを心から認め、真実を告白することから始まります。

不倫が仲違いの原因であった場合、和解は、裏切った人が告白するときに始まります。和解の過程の一部として、告白には、裏切った人間の側が完全に心を開くことが伴わねばなりません。何かを隠したままではできません。さもないと、それが発覚するとき（やがて発覚します）、再構築された信頼関係を破壊してしまうでしょう。そして、信頼が二度裏切られるとき、最初の裏切りよりもずっと和解は困難になります。

信頼の再構築には、時間と忍耐が必要です。信頼を壊した行為が深刻であればあるほど、修復するには多くの時間がかかります。時として、あたかも二歩進んで三歩下がっているかのように感じるという事実を受け入れてください。ある日には、あしたへの希望があるように思えるのに、次の日には、逃げ出したいと感じるのです。しかし多くの人が、壊れた人間関係を修復することに成功し、結婚生活をより深く、より親しく、より満足のいく、より幸せなものにしました。

◆ 結婚の修復における原則で、ほかの種類の壊れた信頼関係においても用いることのできるものは何ですか。その一方で、たとえ赦すとしても、もはや信頼しえない状況、または信頼すべきでない状況とは、どのような状況でしょうか。

信頼が失われるもう一つの形は、家庭内暴力によってです。思いも寄らぬことですが、調査によって、社会の中で最も暴力的な唯一の場所は家庭であることが明らかにされています。家庭内暴力は、クリスチャン家庭を含むあらゆる種類の家族を襲います。暴力とは、家族の中のだれかに対して、1人以上の人によってなされるあらゆる種類の攻撃（言葉による攻撃、身体的攻撃、感情的攻撃、性的攻撃、積極的または消極的ネグレクトなど）のことです。

**問3** 聖書には、神の民の間における家庭内暴力の話も含まれています。次の箇所を読んで、あなたはどうか考え、どう感じますか。これらの物語は、なぜ聖書に収録されているのだと、あなたは思いますか。

創世記 37：17～28 \_\_\_\_\_

サムエル記下 13：1～22 \_\_\_\_\_

列王記下 16：3、17：17、21：6 \_\_\_\_\_

虐待行為は、力を行使して他人を抑えつけようとする人間の意識的選択です。それは、アルコール依存症、ストレス、性的欲望を満たす必要、怒りをより良く制御する必要、犠牲者のいかなる行動によっても、説明されたり、許容されたりするものではありません。犠牲者には、虐待者が虐待するように仕向けた責任などありません。虐待者は愛をゆがめ、悪用しています。なぜなら、「愛は隣りに害を加えることはない」（ロマ 13：10、口語訳）からです。専門的な治療は虐待者の行動に変化を促しますが、しかしそれは、当人が自分の行為に責任を取り、そのような助けを求める場合に限ってのことです。自分自身を神の前にさらす者たちに、神は想像をはるかに超えた助けを与えることができになります（エフェ 3：20 対照）。神は、虐待者が虐待するのを止め、彼らの態度と行為を反省し、あらゆる可能な方法で償いをし、彼ら自身の心をいやすとともに、他者を愛するためにアガペーのような愛を受け入れる手助けをしてくださるのです。

◆ 暴力によって傷ついただけの立場になって考えてみてください。どのような受容の言葉、慰めの言葉、希望の言葉を、あなたは聞きたいですか。虐待者とのより良い生活の仕方に関する助言を与えるよりも、なぜ安全と思いやりのある受容を提供することのほうが重要なのですか。

どれほど多くの人（数百万、はたまた数十億もの人）が何らかの依存症で苦しんでいるのかを知っておられるのは、神だけです。科学者たちは現代でもなお、何が依存症を引き起こすのか、はっきりとは理解していません。場合によっては、渴望や願望が位置する脳の部位を見ることができるにもかかわらず……。しかし残念なことに、こういった依存症の場所を見つけることと、私たちが依存症から解放することとは、同じではありません。依存症は、依存症者だけでなく、すべての人にとってつらいものです。家族のだれかが解放されそうに思えない力に捕らわれてしまうとき、家族全員（親、伴侶、子どもたち）が大いに苦しみます。

薬物、アルコール、たばこ、ギャンブル、ポルノ、セックス、また食べ物でさえ依存症になってしまう原因は、これらの使用（悪用）に伴う習慣性や進行性です。あなたに害を与えていると知りながらも、やめることができません。あなたは選択の自由を享受しつつも、依存している何かの奴隷になり、実際には自由を失うのです。ペトロは、依存症とその結果がどのようなものであるかについて、ごく簡単に説明しています——「その人たちに自由を与えると約束しながら、自分自身は滅亡の奴隷です。人は、自分を打ち負かした者に服従するものです」（Ⅱペト2：19）。

**問4** どのようなものが人々を依存症に陥れるのですか。ルカ16：13、ロマ6：16、ヤコ1：13～15、Ⅰヨハ2：16

罪と依存症は、必ずしも同じものではありません。人は、依存症に陥っていない罪を犯す可能性があります。しばしばそれは依存症になります。神の力によって、依存症になる前にその罪を止めることは、なんと良いことでしょうか。言うまでもなく、罪や依存症に対する唯一の解決法は、新しい心を受けることです。「キリスト・イエスのものとなった人たちは、肉を欲情や欲望もろとも十字架につけてしまったのです」（ガラ5：24）。パウロはまた、キリストのために生きることができるよう、罪深く、依存症的な性質に死ぬとはどういうことかをローマの信徒に説明したうえで（ロマ6：8～13）、「主イエス・キリストを身にまといなさい。欲望を満足させようとして、肉に心を用いてはなりません」（ロマ13：14）と付け加えています。

◆ 自分自身の依存症との戦いや、（家族さえも含む）他者の依存症との戦いを個人的に知らない人がいるでしょうか。クリスチャンであれ、彼らが専門的な助けを必要とするとして、それは霊的な機能不全を認めることではないと、あなたはどのようにして人々に気づかせる手助けができますか。

私たち人間は、死の現実を知っています。私たちは死について読み、死を目にしますし、自分自身が危うく死にそうになったことがあるかもしれません。

**問5** I コリント 15：26 を読んでください。死はどのように説明されていますか。なぜそのように説明されているのですか。

愛するだれかを失った人で、敵である死がいかに手ごわいかを自ら感じない人がいるでしょうか。その一方で、死者は「安らかに」過ごしています。もし彼らが主にあって目を閉じたのであれば、ほんの一瞬と思える間に、彼らは不死の体へと復活させられるからです。「信じる者には、死は小事にすぎない。……クリスチャンにとって死は眠り、一瞬の沈黙と暗黒にすぎない。生命はキリストと共に神のうちにかくされ、『キリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう』（『希望への光』1092 ページ、『各時代の希望』下巻 318 ページ）。

死による深刻な心痛や悲嘆を味わうのは、生きている者たち、とりわけ残された友人や家族です。悲嘆は、喪失に対する自然で正常な反応です。愛する何かや、愛するだれかが取り去られるとき、私たちが経験するのは感情的な苦しみです。

悲嘆の過程は人によって異なりますが、一般的に、たいいていの人がいくつかの段階を通過します。愛する人の死に対する反応で（死が予想されるときでさえ）、最初にして最もよく見られるのは、衝撃と否認です。衝撃は、喪失によってあまりにも突然打ちのめされることからの情緒的防御で、数か月続くかもしれません。また日常的な日々の仕事の最中でさえ、愛する人への思いによって絶えず心が奪われてしまう時期を過ごすかもしれません。しばしば、会話が失ったものや愛する人のことに変わります。このような時期は、半年から1年ほど続きます。

絶望と抑うつ段階は、悲嘆の長い時期です。たぶん悲嘆する人にとって最もつらく、長々と続く段階であり、その間に、喪失の現実を徐々に受け入れていきます。この段階の途中で、さまざまな感情、例えば、怒り、罪責、後悔、悲しみ、不安などを味わうかもしれません。悲嘆のゴールは、心の痛みや失ったものの記憶をすべて取り除くことではありません。回復の最終段階において、あなたは日々の活動の中に新たな関心を持ち始め、日々正常に機能できるようになります。

**問6** 次の聖句の中に、慰めとなるどのような考えを見いだすことができますか。ロマ 8：31～39、黙 21：4、I コリ 15：52～57

依存症の結果として、多くの人が苦しんできました。彼らは欲望の奴隷となり、お金、仕事、健康、そして自由を失いました。しかしイエスは、罪やあらゆる依存症からの自由を私たちに与えるために来てくださったのです。「もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる」(ヨハ8:36)。イエスはまた、私たちといつも共にいると、約束してくださいました(マタ28:20、イザ43:2)。それゆえ、私たちがこの戦いを独りで行う必要はありません。それどころか、この戦いは主の戦いであり(サム上17:47)、主が勝利を約束しておられることを(1ペト1:3~9)、私たちは覚えていなければならないのです。あなたはきょう、どんな依存症にも勝利する道を歩み始め、あなたが切望する自由や、神があなたのために望んでおられるものを受け取ることができます。これは、あなたがもがき苦しまないとか、たまにしか失敗しないとかいう意味ではありません。しかしありがたいことに、あなたが主に見切りをつけない限り、主もあなたに見切りをつけたりなさいません。そして確かに、専門的な助けを求めることも間違っていないです。主は、健康の問題に関してあなたを助けるために医療の専門家をういられるように、依存症を助けるために専門のカウンセラーを用いることもおできになります。

「困難や試練が私たちを取り囲むとき、私たちは神のもとへ逃れ、救う力、解放する強さを持っておられる神からの助けを確信しつつ待ち望むべきである。神の祝福を得たいのであれば、私たちはそれを求めなければならない。祈りは義務であり、不可欠なものであるが、私たちはほめたたえることを忘れていないだろうか。私たちは、あらゆる祝福の与え主に、より頻繁ひんぱんに感謝をささげるべきではないだろうか。私たちは感謝の気持ちを育てる必要がある。たとえ悲しみや苦痛を経験しつつあるときでも、私たちは頻繁に神の憐れみを熟考し、数え直し、神の聖なる御名をほめたたえるべきである」(『セレクトッド・メッセージ』第2巻268ページ、英文)。

### 話し合いのための質問

- ① 信頼の喪失や、壊れた関係の修復において、赦しはどのような役割を果たしますか(マタ6:12~15、18:21、22)。「(愛は……)人のした悪を思わず」(1コリ13:5、新改訳)。
- ② 私たちが悲しみや苦痛を経験しつつあるときに、神の憐れみを熟考し、数え直すことには、どのような利益がありますか。
- ③ あなたの教会の家族は、全体として、何らかの喪失と戦っている人たちをどのような実際的方法で助けることができますか。